

## 「松阪牛」に学んで

平成 18 年度天白小学校 6 年担任

「それなら松阪牛にしよう!」「給食で松阪肉が食べたい!」・・・天白小学校の 6 年生で給食センターへ献立をリクエストするとき、みんなはただ「有名で、おいしそう」「合併して三雲は松阪市になったから」という理由だったと思います。しかし、この「リクエスト献立」をきっかけにして、次のような「松阪牛の学習」が始まりました。

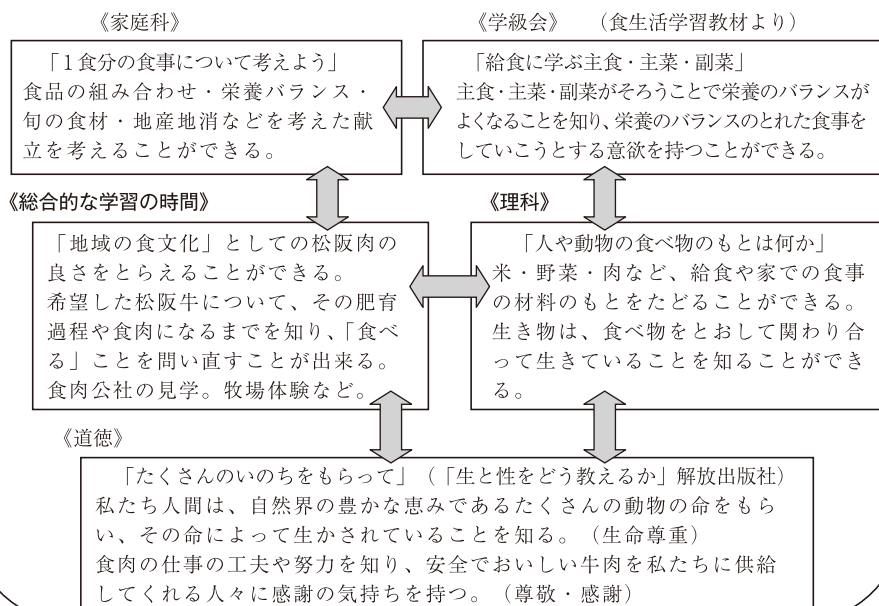
### 1 「松阪牛の学習」でねらったこと

- ・ 私たち人間は、自然界の豊かな恵みであるたくさんの植物や動物の命をもらい、その命によって生かされていることを知る。
- ・ 肥育農家・食肉センター・衛生検査所で働く人々など、食料の生産・流通に関わる工夫や努力について知り、感謝の気持ちを持つことができる。
- ・ 様々な食べ物によって自分たちの命が支えられていることを知り、自分達の食生活を見つめ直そうとすることができる。

### 2 各教科・領域を総合的横断的に学習する単元構想

「松阪牛の学習」を効果的に進めるため、家庭科・理科・道徳などの学習課題に沿いながら、以下のような単元構想で取り組みました。また、1 月には、図工科において版画グループ製作にも取り組み、「松阪牛物語」の版画絵本をつくることができました。

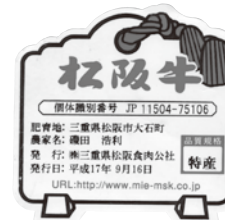
#### 「松阪牛の学習」 - 松阪肉を給食の献立にしよう -



### 3 たくさんの方に支えられた「松阪牛」の学習

教室で松阪肉と輸入肉を食べ比べてみました。味も香りも、そして価格も違いました。

「この肉になる松阪牛はどんな牛なんだろう?」「どんな人が、どんな育て方をしているんだろう?」・・・バックにあった「個体識別管理システム」のシールを手がかりに調べ始めました。



#### (1) 肥育農家に学んで

「松阪牛のふるさと」とあった飯南町・深野の森本武治さんに来ていただきました。少数の牛を一頭一頭、性格やエサの好みまで考えて肥育されています。森本さんからエサや水・育て方の工夫を聞かせていただきましたが、「何より大事なことは愛情。娘のように育てています。」という言葉が心に残りました。

自分たちが食べた肉は、実は愛情をかけて育てられた畜産動物だったということが分かったのです。



今日、森本さんに来てもらいました。森本さんは、「一頭ではさびしがらから」と、飯南から二頭の牛を連れてきてくれました。私は、はじめて牛にさわることができました。

森本さんに、いろいろお話をしてもらいました。お話をしてもらって、いろんなことが分かりました。森本さんは、牛にすごくやさしくて、愛情をたくさん牛にあげているから、牛もやさしくしてくれて、人になつて、あべれたりもしない牛になるんだと思いました。森本さんは、一頭一頭の好みに合わせて牛にえさを毎日あげて、ストレスをためないように、いつも牛をなでてあげて、愛情を持って大事に大事に自分の子のように育てている。松阪牛はこんなふう育てられていることが分かりました。(感想より)

#### (2) 牧場体験でたくさんの家畜とふれあって

森本さんが連れてきてくださった二頭の子牛とふれあうことはできましたが、ふだんなかなか畜産動物とふれあうことができない子どもたちです。ましてや 60 人を超える人数で松阪牛の牧場に行くことはできませんでした。ところが、三重県畜産協会さんの「地域ふれあい体験交流推進事業」のおかげで、牧場体験を実施することができたのです。

大内山ふれあい牧場でバター作りや乳搾り体験、牛の心音や胃の音を聞き、畜産動物の命を感じるとともに、人間と畜産動物との関わりを考えました。

